

ふたばこども園

園便り 6月号

あそびはまなび

令和8(2026)年6月1日発行

文責 園長 松島 正和



※園日より「あそびはまなび」はホームページでもご覧いただけます。

※似顔絵は R7 年度卒園生の作品です

たくさんの保育実習生がきています

ふたばこども園は、佐賀女子短期大学の付属園でもあります。大学付属の園の大きな役割の一つとして、保育実習生を受け入れて次代の保育士の養成を行うというものがあります。4月の終わりから5月にかけて、看護専攻科の生徒さんたちが来ました。また、女子高2年生も2日間来園し、それぞれ工夫した読み聞かせや、パネルシアターなど、子どもたちを楽しませる活動を行ってくれました。6月に入ってから短大1年生の実習が始まります。子どもたちも実習生たちを「お姉ちゃん先生」と呼んでとても楽しみにしています。おかげさまで本園の子どもたちはとても人なつこく、物怖じせずに大人と関わる力が身に付いています。学生さんたちには保育の魅力をより感じてもらい、是非保育士を将来の職業として選んでいただければと思っています。

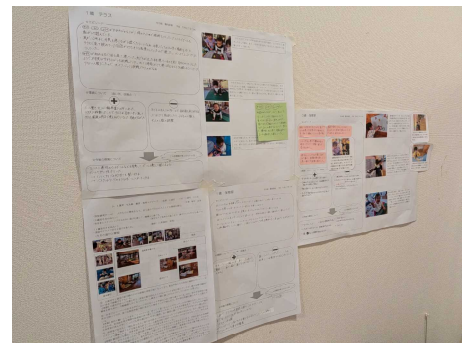


「あそびはまなび」をささえる環境作り



職員通用口から続く廊下の壁に、「研修コーナー」の掲示板があります。本園の教育・保育方針である「あそびはまなび」を支える中心的な柱がここに 있습니다。この年齢の子どもたちの成長の早さは本当に驚くほどです。昨日できなかったことがもう今日はできている。1週間前、はいはいしていた子が立ち上がって手を振っている。そんな子どもたちの実態に合わせて「あそびの環境」をどのように整えたら良いか、保育士たちは常に考え続けています。そして、その考えを共有し、さまざまなアイデアを出し合うことでさらによりよいものにしていく、そのために研

修は欠かせないものです。日々進化する子どもたちの「あそび」についていくことは並大抵のことではありません。また、さらに「その先」を考えて子どもたちに新たな遊びの環境を準備するためには、一人ひとりの子どもに寄り添う心と、保育士としての確かな技量が必要です。本園は県内外からたくさんの方が視察や見学に来られますが、いつ、誰に尋ねられても「このようなねらいで、こんな環境を準備しています」と胸を張って説明できる、そんな保育を行っています。



お誕生会、保育参加へのご協力ありがとうございました



5月生まれの子どもたちのお誕生会や、保育参加へのご協力ありがとうございました。共に過ごしていただいたお子さんの様子はいかがでしたでしょうか。ご家庭の様子とはまた違った姿がご覧いただけたのではないかと思います。子どもたちが園の中でどのような遊びに興味を持っているのか、お友達とどのように関わり自分の世界を広げようとしているのか。わが子とはいえ、知らない面がたくさんあることにきっと驚かれると思います。家に帰られたら園での出来事をたくさん話題にして、お子さんとの会話を楽しんでいただければと思います。

旭学園理事長が交代します

すでに報道等でご承知のことと思いますが、5月20日付で旭学園の理事長が内田信子氏から溝上泰弘氏へと交代いたしました。内田前理事長は2018年から8年間理事長職を務めてこられました。溝上新理事長は29年度までの任期となります。今後園の重要事項などの理事長名が変わりますのでご承知おきいただければと思います。